

宮崎のスポーツ

～宮崎県初のJリーグクラブ『テゲバジャヤーロ宮崎』の認知度を更に向上させるためのクラブが行う地域貢献活動や地域との連携活動を提案せよ～

1年H組 小川 佐々木 二方 村北 森重

テゲバジャヤーロ宮崎の認知度（1H）



アンケート対象：令和3年度宮崎南校1年H組42名

どのような人を呼ぶのか？

テゲフリ

ってなに～～～～？

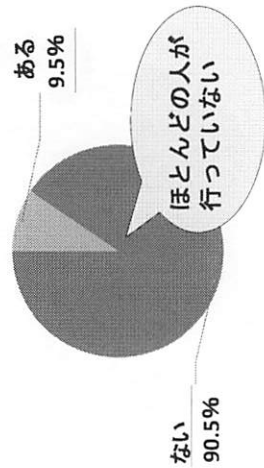


2021年観客動員数



2021年テゲバジャヤーロ宮崎年度別観客数

試合を見に行ったことがあるか



アンケート対象：令和3年度宮崎南校1年H組42名



観客はいるものの中
高年齢層が多め...

テゲフリのフリには

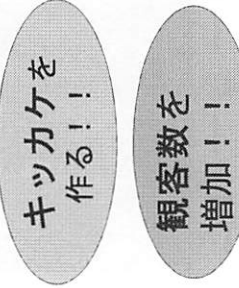
二つの

意味が！

このまま観客数が
少ないままだと...

J2へ昇格できな
い!!!

そこで！



観客数を増やすためには...



スタジアムでイベントを
開催しよう!!

ターゲット層

大人 子供

家族連れ



一つ目の

フリは？

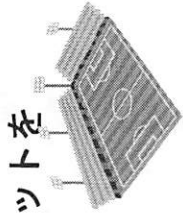


フリーマーケット

具体的内容①

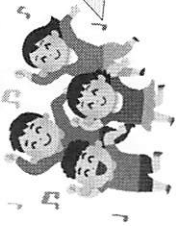
ホームスタジアム、周辺

フリーマーケットを
開催！！



具体的内容②

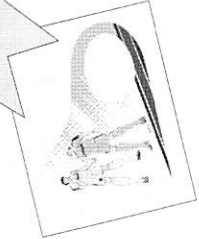
選手が商品を販売する
ブースを設置！！



選手との
ふれあいが
できる！

しかも...

限定商品販売！！



具体的内容③

地域の人に出店してもらおう！

地域交流
イベント

具体的内容④

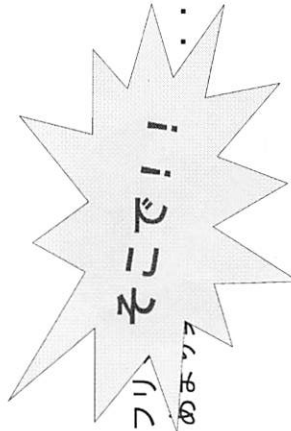
出店者にペアの
ゴール裏のチケットを
プレゼント！！



フリマを開催する利点

スタジアムの
場所を把握できる

人が集まる



二つ目の

フリマは？

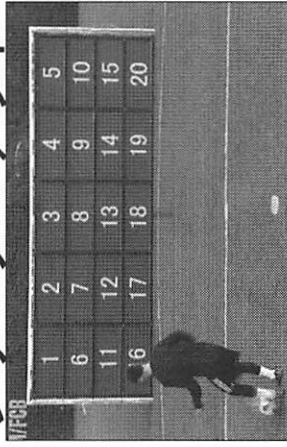


具体的内容②

選手が
直接指導！！



フリーターゲット



具体的内容①

当てた枚数に応じて

限定商品
ゲット！

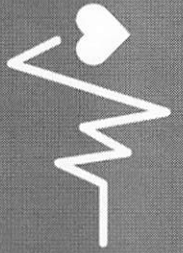


移動手段



臨時列車を
手配
していた！

3 すべての人に
健康と福祉を



しかし

停車する
場所が少ない
駅から約15分
かかる



さらに！！

宮崎市内から車で

40分

利点は？

直接スタジアムに
行ける！

人を多く呼べる

無料でいける

宣伝方法は？

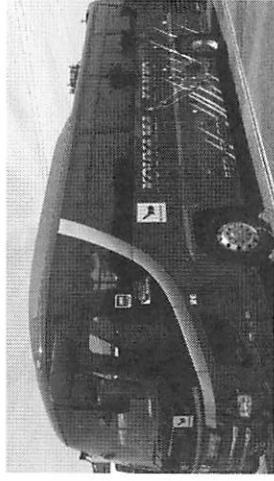
参考資料

テグバジャーロ宮崎-オフィシャルサイト
<https://www.tegevaliandro.com/>

2021 テグバジャーロ宮崎 年度別結果 - Soccer
DB <https://soccer-db.net/team/attendance.php?te=1194&yr=2021>

<https://grove.tokyo/media/wp-content/uploads/2021/06/SNS.png>

マイクロバスの手配



ホームスタジアムの場所を知っているか

知っている
7.1%

知らない
92.9%

ほとんど
知らない！！

アンケート対象 令和10年度前期試合11場4,28名

チラシでの広告



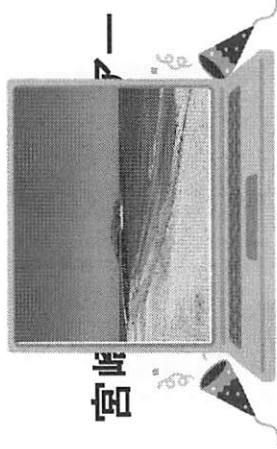
ボランティア活動やイベント
でチラシを配る！！

宮崎の起業

～宮崎県において、起業したら成功すると思う業種・業態とその理由について考察せよ～

1年 H組 中村 坂下 三穂 近藤 江夏

宮崎の伝統文化などが忘れさらられる可能性がある



オンラインツアーについて

- ・参加者数は、8人～15人
(コースによって異なる)
- ・週に3,4回実施する
- ・参加者と社員のグループチャットを作り詳細を決定する

Q今現在の宮崎への観光客の現状を知っていますか？

宮崎の魅力をアピールできていない
→アピールしても他県の人々に伝わっていない



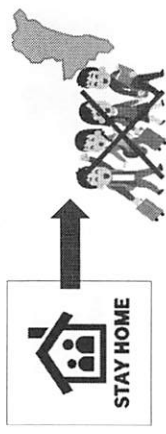
オンラインツアーの企画、運営



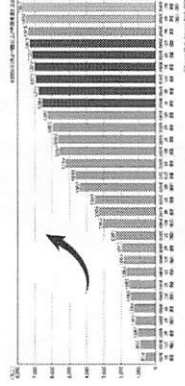
オンラインツアーの参加者を増やすために...

- VRゴーグルの利用
→実際に宮崎に来ている気分になる
- ・会社が50000円程度のゴーグルを購入
- ・希望した参加者に1500円で貸し出す
- ・事前に参加者の自宅に郵送する

新型コロナウイルスにより



日本国内のインターネット利用者数推移



年々急上昇

旅行会社の経営

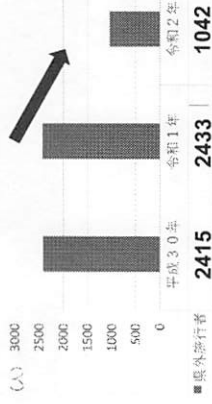
すべての人、すべての地域を対象とした旅行会社の経営をする。

宮崎の観光業を盛り上げることが出来る！

あらかじめ設定された5つのコースから選んでもらう



宮崎の現状



⇒コロナ禍に入り県外観光客が2倍近く減少している

オンライン を活かし、

多くの人に宮崎を知ってもらおう

第一歩 提供する企業

気軽にオンラインツアーに参加する

オンラインツアーに参加したら、実際の宮崎旅行の費用が安くなるというシステムを作る！

宮崎への観光客が増加する！！

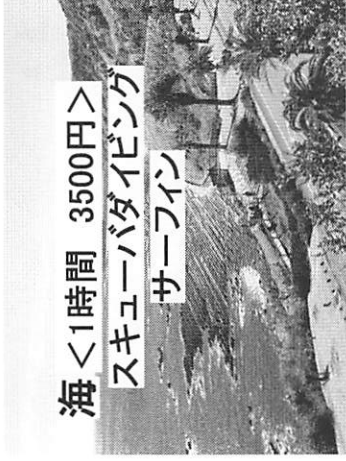
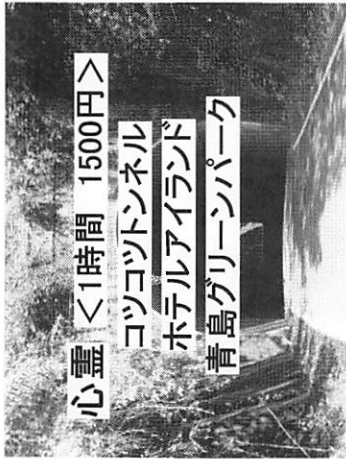
自然 < 1時間 3000円 >

高千穂

都井岬

綾・吊り橋

飴肥城下町



値段設定

- 人件費
- ツアー体験料
- 体験キット
- 写真代
- お土産代

他社
約5000円

私たちの会社 2700円

800,000円<72,500円X
X>11.03...

11回、つまり約半年からはずつと利益を出し続けることができます！

パラグライダーなどは実施するための費用が多いため、空コースと海コースは

- I. 2週間に1回など、実施する日時を決める
- II. 参加者15人以上で実施する
- III. 基本的にはVRゴーグルを着用してもらおう

オンラインツアーの利点

これらのことにはある程度の経験や資格がないと楽しめない

オンラインなら

プロひとりが行うだけで、何人でも同じ景色を共有し楽しむことができる！！

旅行とえば？



ツアー前

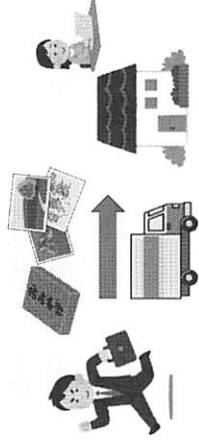
コースにあったお土産や、体験キット（VR等）を送る（基本料金に含まれる）

ツアー中にお土産を食べたり、体験キットを使ったりできる

ツアーをより一層楽しむことができる！！

ツアー後

参加者が写真に入った食べ物やお土産、写真を宅配業者を通じて送る



オンラインツアーの利点

実際の車での移動が少なくなる
→ 排気ガス削減
→ 地球にやさしい



人気のお土産



宮崎マンゴーラングドシヤ
788円(税込)



炭火焼
648円(税込)

SDGs達成！

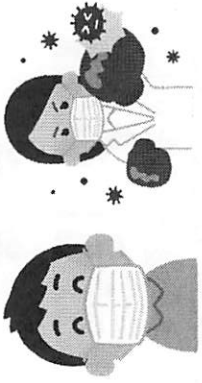


宮崎の医療

～コロナ禍の中、
子供から大人まで
楽しく参加できる健康増進イベントを
提案せよ～

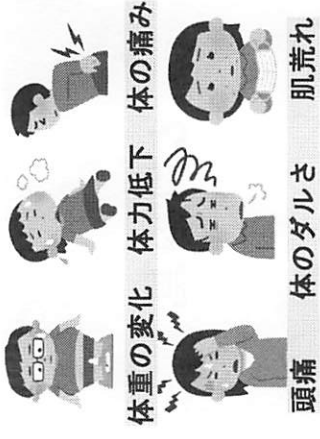
1年1組 江上 川辺 中武 兵頭 松田

コロナウイルス流行

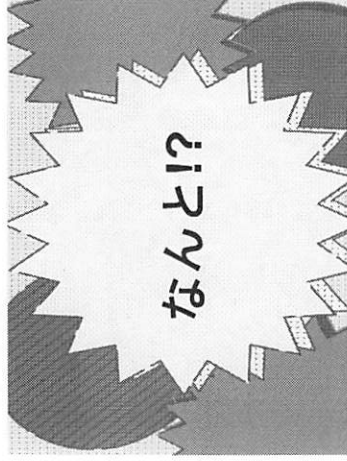


コロナ禍が進み・・・

- ①運動不足
- ②家でのマンネリ化



自粛期間中の運動不足
感じませんでしたか？



運動不足を感じた割合



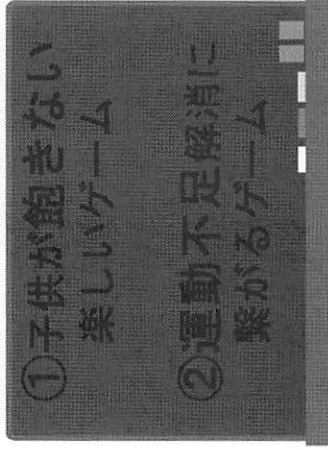
ニューズブランド「ALTRA」(アルトラ)を展開する株式会社ノライド(本社・東京都多摩市) コロナ禍における運動習慣についての調査

①家に居る時間が増えた

②ストレスが増えた



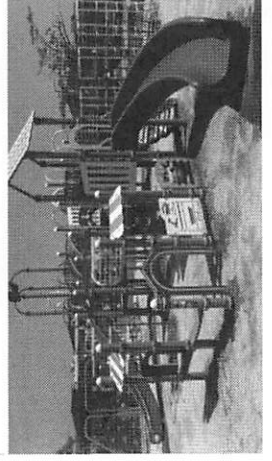
宝探し



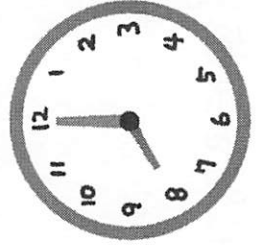
私からの挑戦状



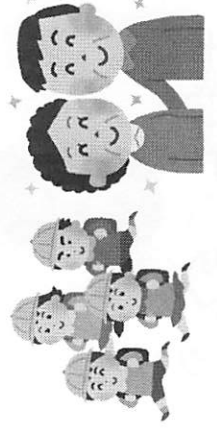
大坪池公園



休日の午前8時～



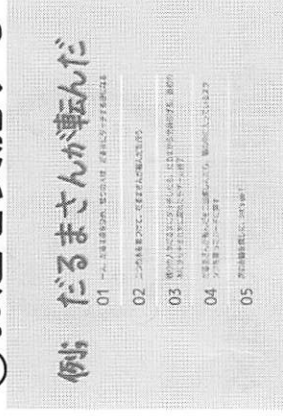
小学生 × 家族



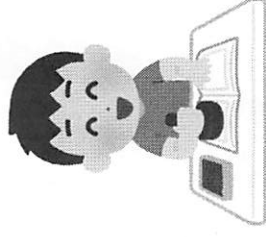
①宝を探す②宝を発見



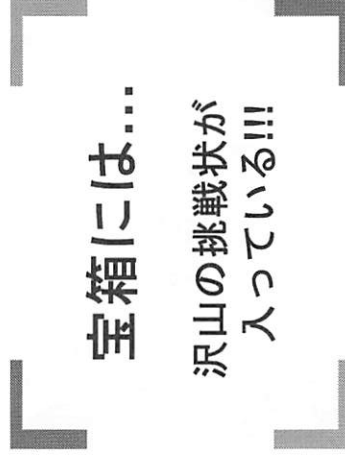
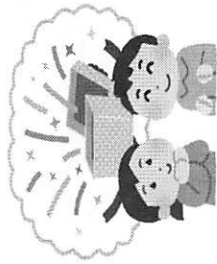
③お題を実施する



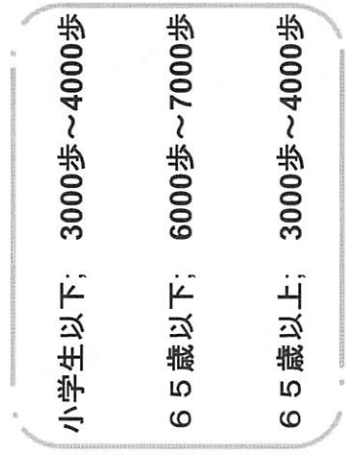
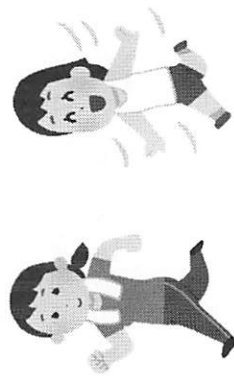
④スタンプを押す



スタンプを沢山集めて
景品を貰おう!!!



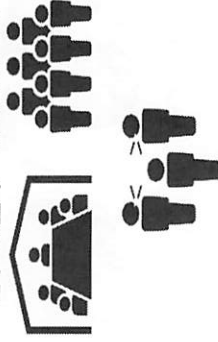
7000~8000歩



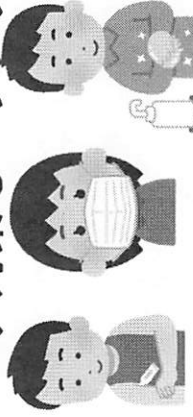
目標歩数を達成できる!



密集・密接・密閉を回避するために



コロナ対策もバッチリ



検温 マスク着用 消毒





表



裏



参考資料

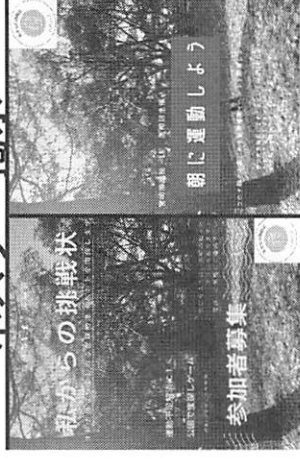
- コロナ禍における運動会に関する調査
https://www.kankou-cellb.or.jp/kanko_gendai_shi119.pdf
- 1日1万歩」は実は歩き過ぎかも！キレイも健康も叶える「異常値」ウォーキングとは？
<https://www.mytopi.com/wellness/fitness/otona-article-160322/>
- 画像
【大井池公園】立地が最高！？遊具に水遊びも図書館やスーパードーも！/宮崎市
https://myazaki-hinatalawebnext.com/otsuboike_park/
- 1日どれくらい歩けばいい？ 年代別「寝たきりにならない目標歩数」
https://666.aeahi.com/print_image/index.html?photo=2018100500063_z&image=2



ロゴマーク



ポスター一掲示



運動不足を一緒に
解消しませんか？

3-2 研究開発Ⅱ

3-2-1 研究開発の意義

(1) 研究背景

本校はハイレベルな文武両道を目指し日々研鑽に励んでいる。しかしながら「生徒の郷土に対する意識調査」を実施した際に、地元地域であるはずの宮崎県や宮崎市の現状を十分に理解できていないという状況が浮き彫りとなった。また、「自分自身が地元の課題解決に貢献できると思わない」と答えた生徒が多く、自分の可能性を感じていない状況にあることがわかった。このことから、以下の仮説を基に研究開発Ⅱを実施した。

(2) 仮説

地域課題研究に取り組み地元地域の現状を理解することで、自身のもつ可能性を認識し、地域創生の使命感や達成感を育成することができるのではないかと考える。

その根拠としては、生徒に対して実施した「郷土に関する意識調査」の「宮崎市の課題解決に貢献したいと思わない」と回答した生徒の割合が全体の16.7%であった。理由としては「自分たちの力では変えることができない」という生徒の悲観的な認識により、自身の持つ可能性を見出せていないことが理由であると考えられる。その為、実際に研究に携わることで地域と自分たちの可能性を見出せると考える。

(3) 昨年度の考察

〈成果〉

○本校のオリジナルワークシートを作成した。このワークシートを用いることにより研究計画までどの分野も統一した指導ができた。また、探究推進委員会の学年担当職員による事前ワークシート検討会を行い、統一性のある指導ができた。

○学年全体で課題研究に取り組み、外部審査員を招いた課題研究発表大会を実施することができた。発表形式を変更し、お互いの発表を聞くことができる体制を整えた。

○前2学年の「郷土に関する意識調査」において、一昨年度の研究開発Ⅰ終了後の結果と比較すると次の4点の成果が見られた。

- ・県内への進学志望者が28.5%から33.3%に上昇した。
- ・県外を進学先に志望した理由において、県内の大学・専門学校等に魅力を感じないと答えた生徒は、25.0%から15.7%と低下した。
- ・将来の就職先において、県内を希望する生徒は25.8%から33.7%と上昇した。
- ・郷土が抱える課題改善に貢献していきたい（いける）と思う生徒が72.8%から78.7%と上昇した。

上記の結果より、研究開発を進めることにより郷土への愛着や誇りの育成ができていると考えられる。

○「自己分析アンケート」によると、全体的に探究活動のスキルは向上していったように思われる。昨年の研究開発Ⅰでのスキルを基に、研究開発Ⅱを実施できたことが理由ではないかと考える。

〈課題〉

- 課題研究発表大会の審査方法について、審査方法は本校独自のルーブリック表である。各審査員の審査時間に対して審査項目の複雑さ、審査項目が多いことにより評価時間不足が指摘された。しかしながら、鵬DPによる評価はフィードバックにおいても本校職員以外からの視点が必要である。適切な時間の確保と適正な評価の為、外部からのフィードバックを可能にする審査方法の検討が必要である。
- 指導者の課題研究に対する研修（自身のスキルアップが実感できる）が必要である。今後は、指導者側が自身の担当分野に関して、達成感や充実感が持てるようなワークシート、指導案等も改善していく必要があると感じた。
- 昨年度はコロナ禍により、フィールドワーク等の実施が困難であった。ICT機器の活用をはかり、オンラインシステムの在り方を研究する必要がある。
- 本校で取り組んだ内容に関して、他校への普及が思うようにはかれなかった。効果的な普及の手段開発が急務と考える。

(4) 実施項目

研究項目	期待される効果
地域課題研究計画	地域課題研究①で見つけた課題をどのように解決していくのか、自ら仮説を立て、具体的な活動計画を立てることができる。
地域課題研究前半	本校独自のワークシートを用い、段階を踏ませることによって地域の課題の核に迫ることができる。各大学、企業、行政と協働して研究を進め、また深化していくことで、情報収集力、問題発見力、分析力を身につけることができる。また、高校生の視点からの問題提起により地域資源に新しい価値を見出すことができる。 計画発表を受け、今後の活動プランを再構築することによって課題解決することができる。また、活動が本格化することによって、文献調査活動やデータ収集を行うことができ、情報収集力、問題発見力、分析力を伸ばすことができる。
計画発表	自分たちが立てた計画を第三者と協議することで、計画の矛盾や課題解決までのプロセスを修正することができ、以後の活動の指針や方針を立てることができる。
中間発表	自分たちの研究を見つめ直し、有識者とのセッションから課題解決の糸口を見つけ、新たな発見ができる。また、ポスターセッション形式で行うことにより本番同様の体験ができる。さらに、お互いの発表を通して、質疑応答を行い切磋琢磨することで、クリティカルシンキングやロジカルシンキングといった思考力・判断力・表現力を培うことができる。

地域課題研究 後半	ポスターセッション形式の中間発表を受け、研究・調査をより深化することができるようになる。
プレゼン資料作成	論理的思考力や表現力を育成ができる。
研究発表	新たな視点を見出し、研究の面白さを学ぶことで研究の継続性、地域活性の使命感を育成できる。

(5) 成果と課題

〈成果〉

- 昨年度作成した本校のオリジナルワークシートをブラッシュアップし、どの分野でも焦点を絞った研究をおこなうことができた。また、研究計画まではどの分野も統一した指導ができた。さらに、探究図書部の学年担当職員による事前ワークシート検討会や、探究図書部と各指導者による質疑応答の場を設定することで、指導の目線あわせができた。
- 中間発表や課題研究発表会において、BYODによるQRコードを活用した資料配付をおこなうことで、生徒の活動時間を確保することができた。また、発表者への感想や意見を、Google フォームを利用して集約することで、発表後の反省会までの流れを円滑にした。
- 学年全体で課題研究に取り組み、外部審査員や来賓を招いた課題研究発表大会を実施することができた。また、本年度も互いの発表を聞くことができる形の発表形式をおこなった。昨年度と違い、1年生に発表を見学する機会を与えた。さらに、1年生の投票によるオーディエンス賞を設けることにより、発表会への積極的な参加を促し、次年度のイメージを持たせることができた。また、コロナ禍により、各班の発表回数が減少したが、回数を重ねるごとに発表者自身の「声の強弱」や「身振り手振り等のパフォーマンスの工夫」が見られるようになるなど、昨年同様、生徒の変容が確認できた。生徒が今まで関わることのなかった様々な人物と接することで、新たな視点の獲得や自分自身の持つ可能性を認識するなど自己肯定感の向上につながり、自分自身のさらなる価値を見出すことができたのではないかと考える。
- 課題研究発表会の審査方法について、評価時間不足を指摘されていたが、審査員へ事前に担当班のポスターと鵬 DP 評価表を送ることで、外部からのフィードバックを円滑にした。
- 2 学年の「郷土に関する意識調査」において、前年度の研究開発 I 終了後の結果と比較すると次の 4 点の成果が見られた。
 - ・ 県内への進学志望者が 27.7%から 30.7%に上昇した。
 - ・ 県外を進学先に志望した理由において、県内の大学・専門学校等に魅力を感じないと答えた生徒は、16.1%から 15.2%と低下した。
 - ・ 将来の就職先において県内を希望する生徒は 31.6%から 32.8%と上昇した。

- ・郷土が抱える課題改善に貢献していきたい（いける）と思う生徒も 80.1%から 83.5%と上昇した。

上記の結果より、研究開発を進めることにより郷土への愛着や誇りの育成ができていると考えられる。

- 「自己分析アンケート」によると、全体的に探究活動のスキルは向上していったように思われる。昨年の研究開発Ⅰでのスキルを基に、研究開発Ⅱを実施できたことが理由ではないかと考える。

〈課題〉

- 課題研究発表大会の審査方法について、昨年同様、本校独自のルーブリック表である鵬DP評価により行った。昨年も審査に関わっていただいた方も多く、審査時間に対して審査項目の複雑さなどは自然と改善されたこともあったが、今後初めて審査される方の評価時間不足が考えられる。
- 指導者の課題研究に対する研修として質疑応答の場を設けたが、計画発表以降の指導について、困難な部分があった。各班で流れが違うことから、指導者で情報共有や意見交換をする場を設け、指導者個人ではなく、探究図書部員を含めたチームとして指導していける体制を整備する必要があると感じた。
- 本年度も前年度に引き続き、コロナ禍により、フィールドワークや学年全体の説明会等の実施が困難であった。ICT機器の活用をはかり、オンラインシステムの在り方を研究する必要がある。
- 本校で取り組んだ内容に関して、他校への普及が思うようにはかれなかった。
- 評価表の内容検討を初めとする評価方法の再検討及び確立が今後の大きな課題であると考えられる。

3-2-2 各項目の実施内容

(1) 地域課題研究・地域課題研究計画

①実施内容

内 容：普通科 52 班、フロンティア科 22 班に分け、地域に関する内容や地域の団体や大学と協力して行える研究に取り組む

指導教員：2 学年団

指導時間：総合的な探究の時間（週 普通科 1 時間 フロンティア科 3 時間）

②普通科 年間予定表

月	日	曜日	時間	2 学年		
				内容	主幹	指導
5	6	木	㊦南	地域課題研究全体説明	探㊦	学年
	20	木	㊦南	課題研究テーマ決め①	探㊦	学年
	27	木	㊦南	課題研究テーマ決め②	探㊦	学年
6	10	木	㊦南	課題研究計画立案①	探㊦	学年
	17	木	㊦南	課題研究計画立案②	探㊦	学年
	24	木	㊦南	課題研究計画立案③	探㊦	学年
7	8	木	㊦南	計画発表準備	探㊦	学年
	15	木	㊦南	計画発表会	探㊦	学年
	特編		㊦南	計画発表変更・フィールドワーク計画	探㊦	学年
9	9	木	㊦南	中間発表準備①	探㊦	学年
	24	金	㊦南	中間発表準備②	探㊦	学年
10	7	木	㊦南	中間発表	探㊦	学年
	14	木	㊦南	課題研究	探㊦	学年
	21	木	㊦南	課題研究	探㊦	学年
	28	木	㊦南	課題研究	探㊦	学年
11	4	木	㊦南	課題研究	探㊦	学年
	11	木	㊦南	課題研究プレゼンテーションまとめ	探㊦	学年
	25	木	㊦南	課題研究プレゼンテーションまとめ	探㊦	学年
12	9	木	㊦南	課題研究発表練習	探㊦	学年
	16	木	㊦南	課題研究発表練習	探㊦	学年
	17	金	㊦南	課題研究発表・まとめ	探㊦	学年



宮崎市職員による出前講座



活動の様子



宮崎大学 竹内教授によるご指導

(2) 計画発表

①実施内容

内 容：本校独自のワークシートで進めた計画を A4 用紙 1 枚にまとめ、有識者より意見をいただき研究の計画改善に役立てる。

指導教員：副校長、教頭、教務主任、進路主任、生徒指導主事、3 学年担任、各研究担当職員

指導時間：7 月 15 日（木）6 限（総合的な探究の時間）



計画発表 発表・質疑応答の様子

②計画発表生徒作成資料（一部掲載）

班番号	7	リーダー 長友仁美	班員 津村日菜、宮田光、山崎さくら、平山悠一郎、日高馬康
計画発表(提出用)			
分野	医療		
注目する施策	宮崎市のNPO法人の生理用品募り、無償配布している施策		
探究のテーマ	宮崎の生理に関する理解と貧困について。		
サブテーマ	周囲の人の理解と学生の貧困に対し私たちができること。		
上記のテーマになった理由	今生理の貧困がニュースなどの話題に挙がるのが多い。コロナにより貧困に悩む人も増えている。そこで男女の理解差、今現在の活動を活用することへのためらい、支援をどうすべきなど考えていかねければと考えた。		
仮説	体育食活動を学習と共に行うことで理解を深め、生理用品の募集や、コスパの良い物を提供することほどこできるのか？		
仮説を立証するための手段と大まかな日程	7月 ↓ コスパの良いナプキンの代用品はある？ ↓ 提供はできる？ ↓ 体験を行う方法を考える 9月 ↓ NPO法人みやびぎ男女共同参画推進機構の行う生理用品の無償配布の活動について質問 ↓ 体験を行う ↓ 活用方法を考える 10月 ↓ 具体的にまとめる。		

班番号	44	リーダー 渡邊 愛音	班員 勘場、日高、甲斐、見野
計画発表(提出用)			
分野	食		
注目する施策	フーディテ推進プロジェクト、食と生かした取組による弱者と交流人口の拡大		
探究のテーマ	夏バテ対策のスイーツを地元産の食材で作る。		
サブテーマ	日回夏を利用したかきまつ茶のスイーツ		
上記のテーマになった理由	宮崎の過酷な夏をリズするのために昔の人たちが冷やし汁を発明したことを見習って自分たちもなにか作りたいと思ったから。		
仮説	食欲が落ち、栄養や水分が不足しがちな夏には垂たいた、手軽に食べられるスイーツがほしいのでは？		
仮説を立証するための手段と大まかな日程	7月中旬 レシピを決める 7月下旬 実際に作ってみる } 夏休みなどに自由で 8月上旬 情報交換 8月下旬 情報交換 9月上旬 夏バテのレシピを日回夏の方にフーズくわい調べる 9月下旬 10月上旬 表紙原稿、スライドを作る 10月下旬 練りおかしを作る 11月上旬 発表練習をする 11月下旬 12月上旬 発表準備		

(3) 中間発表

①実施内容

内 容：今まで研究してきたことをA4用紙1枚にまとめ、有識者より意見をいただき研究の改善に役立てる。ポスターセッション形式。

指導教員：副校長、教頭、教務主任、進路主任、生徒指導主事、3学年担任、各研究担当職員

指導時間：10月7日（木）6限（総合的な探究の時間）



中間発表の様子

②中間発表生徒作成資料（一部掲載）

教育分野 26 類 担当教員 黒木大
副員 寺崎寿夫 石川智也 清さくら 森本心 荒玉七海 長村心遠

1. 探究のテーマ
どげんかほんといかん！読書をしな命種っす

2. 上記のテーマになった理由
インターネットの普及により、読書をしな命種が増加しているため。

3. 仮説
忙しい高校生の中でも、読書に触れることができるオーディオブックを活用することで高校生の読書量を増やす

4. 仮説を立証するための手段と大まかな日程
校内でアンケートを取り、読書をするかどうかで学力向上に繋がると感じるかなどの実験を集める

5. 現在の状況
（仮アンケート結果）
Q1.読書をするか、読書をしな命種、どちらの方が学力向上に繋がると感じますか？
・読書をする：58 ・読書をしな命種：10
Q2.読書をしな命種理由
・読書をする時間が少ない：40 ・メディアのほうを多く利用する：6 ・読書に興味がないから：7
（インターネットから集めた資料）

性別	学年	読書量					平均
		2冊以上	1冊～1冊未満	読書しない	読書しない理由	読書しない理由	
男子	高1	200	10.8	28.7	56.1	100%	100%
	高2	208	13.9	29.3	42.6	100%	100%
	高3	182	17.1	26.9	52.6	100%	100%
	高1 読書好き	79	15.4	34.1	50.5	100%	100%
	高2 読書好き	72	16.4	20.8	36.6	11.7	100%
女子	高1	143	16.8	17.7	59.2	100%	100%
	高2	71	7.8	32.3	59.9	100%	100%
	高3	56	11.8	29.3	44.6	100%	100%
	高1 読書好き	52	11.8	33.3	33.8	100%	100%
	高2 読書好き	52	11.8	13.9	30.4	49.6	100%
予集	高1 予集	144	11.8	26.4	33.8	100%	100%
	高2 予集	121	13.7	24.8	33.9	100%	100%
	高3 予集	125	15.2	26.4	49.6	100%	100%

6.の仮説立証
オーディオブックについての情報収集。

班番号	50	リーダー	坂中理希	班員	小川悠菜 堀上 中村虎流 日高
中間発表（提出用）					
探究のテーマ	自家読法と読書なら!!				
サブテーマ	自分たちの読書スタイル、好奇心でもって自家読法方法を紹介します!!				
上記のテーマになった理由	もともと読書している人が増えてきたことから、誰でも簡単に自家読法の方法を研究したいと思った。自分たちは読書読者の減少、高齢化によって、読書に関わる人が減ってしまったので、少しでも多くの人に読書に興味を持ってほしいから。				
仮説	自家読法のやり方を教えることで、今後の読書量増加による学力向上に繋がると考え、また、読書に興味をもつてくれる人が増えてほしいから。				
仮説を立証するための手段と大まかな日程	[0日] 自分たちの読書の原因・読書方法の調査（自分たち） 学内アンケート実施（自家読法という新しい読書方法） ・中央：読書と自家読法を聞く。 ・後半：読書の情報をもとに、「1冊か2冊か」を調べる。 [1日] 結果をもとに資料作り → 自分たちの資料作成、発表の準備 [2日] 発表、発表準備				
現在の進捗状況	自分たちが「1冊か2冊か」を調べたが、原因不明に読書量増加の理由と「自家読法方法の研究」が必要。 読書と自家読法の理由 ・高齢化 ・収入の不安定（読書量増加による学力向上）				
今後の活動予定	①B ・アンケート作成 → 結果をまとめる。 ・読書と自家読法に関する調査方法の調査。 ・情報をもとに、1冊か2冊かを調べる。 ①H 自家読法方法についての資料作り 色んな読書方法を調べ、自分たちが読書方法を紹介できるように ↓ 修正				

(4) ポスター作成講習会

○実施内容

内 容：今まで研究してきたことをA0用紙1枚にパワーポイントを利用してまとめる作業において、文字の大きさや図やグラフの配置など、見る側の視点に立って指導を行う。

指導教員：宮崎北高等学校 甲斐 史彦 先生

指導時間：11月9日（火）16：30～17：00

指導対象：各班指導教員



ポスター作成講習会の様子

(5) 研究発表会

①実施内容

内 容：外部審査員と職員による審査を行い、鵬 DP 評価表を用いて評価し、各学科
1～3位の順位を決める。

指導教員：2 学年団

指導時間：12 月 17 日（金）

開会式 9：15～ 9：35
発表前半 9：40～10：40
休憩 10：40～11：10
発表後半 11：10～11：40
協議 11：40～12：10
閉会式 12：10～12：40



発表の様子

②外部審査員一覧

宮崎大学医学部教授	澤口 朗 様	宮崎大学農学部教授	酒井 正博 様
宮崎大学教育学部教授	添田 佳伸 様	宮崎大学工学部教授	横田 光広 様
宮崎大学研究国際産学・地域連携課	吉井 聖人 様	宮崎市役所企画財政部企画政策課	青木 幸弘 様
宮崎県教育庁 高校教育課	重永 信祐 様	宮崎市大淀地域自治会連絡協議会会長	中川 雄一 様
宮崎市教育委員会	榎本 晴彦 様	宮崎産業経営大学法学部教授	徳地 慎二 様
南九州大学教授	竹之山 慎一 様	宮崎公立大学非常勤講師	新村 拓也 様
宮崎市青少年育成連合会事務局長	青山 桂子 様	宮崎県男女共同参画センター	山田 成美 様
宮崎空港ビル株式会社総務部総務課	池内 周太 様	有限会社嶋末塗装店代表取締役社長	嶋末 武 様
企業組合ライオン堂	相田 慎一郎 様	道本食品株式会社	藤田 葉子 様
宮崎県立宮崎大宮高等学校 WWL 担当	猪股 秀一 様	宮崎県立宮崎西高等学校 SSH 担当	東口 匡樹 様

③生徒発表テーマ一覧 添付資料① に掲載

④各賞一覧

フロンティア科上位 3 チーム

普通科上位 4 チーム

順位	研究テーマ
1	みんなが自分らしく生きる社会を目指して
2	羽ばたけ宮崎のライチ
3	打倒！ウイルス ～はじめの一手～

順位	研究テーマ
1	臍帯血を人々に広める
2	スポーツ医療～DVD を活用して高齢者が楽しく健康的な生活を目指すために～
3	子ども・子育て応援プロジェクト
3	若者 Support Project

オーディエンス賞

学科	研究テーマ
フロンティア科	授業に全集中！ ～授業中の睡魔解消を目指して～



フロンティア科 1位



普通科 1位



審査員の方々



生徒の考案した試作品



発表の様子①



発表の様子②



発表の様子③



全体の様子

みんなが自分らしく生きる社会を目指して

宮崎南高等学校 フロンティア科2年 黒木華蓮 投山璃桜 谷口凜恩 指導者 豊田広子

研究概要

最近LGBTや性の多様性という言葉をよく耳にする。これらの言葉を私達は、本当に理解しているだろうか？自分達は今回、「みんなが自分らしく生きる社会を目指して」をテーマとし、一つの手段としてLGBTQ+の理解促進を図ることにした。

研究計画

1. 実態調査(クラスのLGBTQ+に対する意識調査)
2. 啓発活動を行う。
3. 実態調査(2回目の意識調査と1回目の意識調査の比較)

啓発活動①

宮崎県でLGBTQ+の啓発活動を行うレインボービュー宮崎という団体の代表を務める山田健二さん、そして一緒に活動を行っている串間直統さんにインタビューをしました。今回は、インタビュー形式で撮影した動画をクラスで放映し、クラスのLGBTQ+に対する理解度を深めた。

私達と山田さんのインタビュー動画は、こちらのQRコードからご覧いただけます！



啓発活動②

☆ポスター作成☆
自分達が学んだことをポスターにしクラスに掲示した。現在2号発行した。



県庁で行われたレインボーライトアップ&トークショーへの参加。

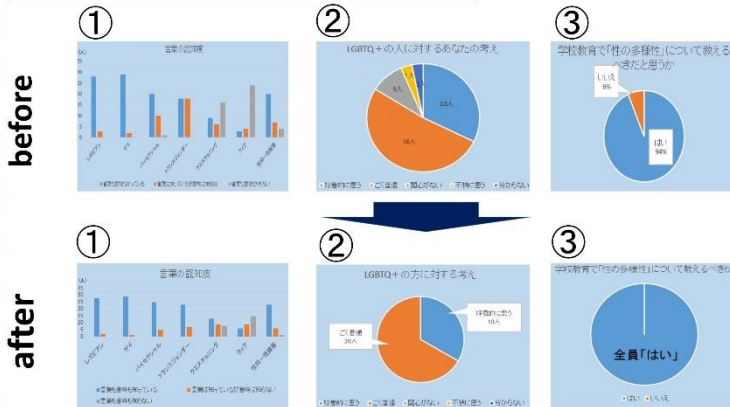
啓発活動③

レインボーライトアップ&トークショーに参加して、理解者のことをALLYと呼び、虹色の物を身につけることでALLYを証明できることが分かった。そこで、私達も身につけられるレインボーカラーのミサンガやブラバンを作成した。

ALLY(アライ)とは→同盟や支援を意味する英語allyが語源。性的少数者を理解し、支援するという考え方やその考え方を持つ人のことを表します。



実態調査(対象・2年1組 計32名)



調査結果

①のグラフより、全ての用語の認知度が上がっていた。②のグラフより、好意的に思うが変わらず10人。ごく普通が20人。関心がない、わからない、不快に思うと答えた人は0人だった。③のグラフより、性の多様性について学ぶべきかという問いに対しては「はい」が100%を占めていた。これらの結果から、自分たちの啓発活動はクラスに良い影響を与えることができた。

謝辞

今回探究活動をするにあたって、ご協力いただいた宮崎大学 椋木香子先生、国際大学 笠井綾先生、国際大学 虹色カフェの皆様、レインボービュー宮崎 代表 山田健二さん、串間直統さんありがとうございました。

結論・今後の展開

今回の啓発活動を通してみんなが自分らしく生きる社会のために必要なことは正しい理解と意識だと考えた。今回はクラス規模で調査を行った。自分たちの啓発活動により、良い結果を得られたため南高校生全体にLGBTQ+に対する意識改革を行いたい。そしてクラスから学年、学校、宮崎、日本へと広げ、権利としての平等が認められ、みんなが自分らしく生きる社会を目指していきたい。

羽ばたけ宮崎のライチ

宮崎南高等学校 フロンティア科2年 稲吉亜弓・奥野愛叶・垣内琉月・渡部遥 指導者 土持勝洋・大庭昌子

研究概要

国内における高い生産量を誇る「宮崎の生ライチ」について、①アンケート調査、②ヒアリング調査、③実地調査という3つの手法を用いて現状を明らかにする。さらに、その調査結果を考察した上で、最終的に生ライチのブランド化や認知度を上げるための提案を行っていく。

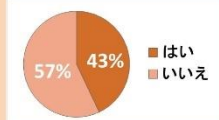
研究目的

若者の立場から宮崎産生ライチのブランド化と認知度向上のために新たな価値創造の提案を行うことで、コロナ禍でダメージを受けた地域経済の活性化に少しでも貢献したい。

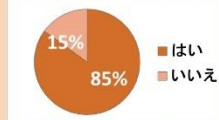
研究結果

1 アンケート調査(宮崎南高校生徒898名) 「私たちの世代の認識」

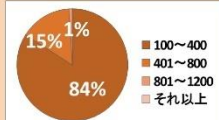
①宮崎で生ライチが生産されていることを知っているか



②生ライチを食べたことがあるか



③生ライチを商品化する場合の値段で買うか



2 ヒアリング調査「行政や流通、販売側からの見解」

〈JA宮崎経済連〉

- ①マンゴーと生ライチの比較
知名度が低く、イメージが浮かばない
→広く浸透しない
- ②市場で売れない理由
値段が高く、生産個数が少ないため。
- ③農家への支援
栽培・販売に対する支援をしている。



〈宮崎県庁農産園芸課〉

- ①生ライチがブランド化できない理由
取組の歴史が浅く、安定した技術がない。
成木された木の本数が少ない。
- ②生ライチをブランド化するメリット
国外で生ライチは栽培されないため希少価値あり。
ビニールハウスで低温度で簡単に栽培可能。

3 実地調査(生産者訪問)「現場の声」

- Q. 栽培するうえでのメリットは？
A. 管理が比較的簡単で育てやすい。経費はマンゴーの10分の1
- Q. 栽培するうえでのデメリットは？
A. 湿度が高いと1日に約200個割れてしまうことがある。
- Q. 生ライチの魅力は？
A. 色、香りの良さ！糖度の高さ！

考察

図のような負の連鎖に陥っている



課題解決のため、低コストで全世代が親しみやすい商品を多く売り出す必要がある。

また、この3つの短所をカバーできる提案を行うと、より一層ブランド化に近づけることができると考える。

提案



一連の研究で私たちが見出した新たな生ライチの価値は「香り」

↓
ライミナハンドクリームの提案

- ・皮の割れた生ライチを使用しコスト削減
- ・多くの割れた生ライチを使用し大量生産
- ・全世代誰でも使えるハンドクリームの生産

今後の展望

移り変わる国内の社会情勢に対応しながら、ライミナハンドクリームの商品化に試み、宮崎産生ライチのブランド化推進を図る。

謝辞

今回の研究にあたりまして、御指導して下さいました宮崎産業経営大学 森田英二先生、ヒアリング調査等にご協力いただいた県庁農産園芸課、JA宮崎経済連やJA宮崎中央の担当者の方々、ライチ生産農家の坂井さんに感謝の意を表します。

参考URL

山岸ケン 2021 食品データ館 ライチの産地・生産量ランキング <https://urahyoji.com/crops-lychee/>
果物ナビ 果物廃棄率(日本食品標準成分表2020年版) <https://www.kudamononavi.com/eiyou/eiyouhyou/direction=desc/sort=lossrate/level=1>

打倒！ウイルス ～はじめの一手～

宮崎県立宮崎南高等学校 フロンティア科 2年 浦田駿之介 堀田祐平 宮脇舞衣 高妻真央 田村恵理 指導者 宮田学

研究動機・目的

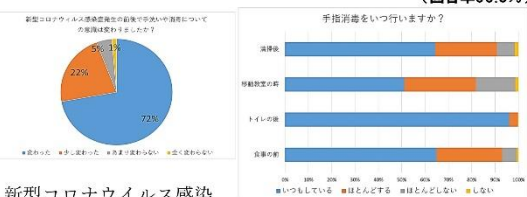
人々の生活や社会経済に甚大な影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症の予防においては、「人と人との距離の確保」「手洗いや手指消毒などの手指衛生」「マスクの着用」などの基本的な感染対策を行うことの重要性が周知されている。なかでも「手指衛生」は、人の手を介してウイルスを媒介することを防ぐことに繋がり、すべての感染症予防において最も重要な手段である一方、確実な徹底が難しいとの報告もある。そこで本研究では、新型コロナウイルス感染症の感染予防および感染防止に向けて、手指衛生が確実に実践できるようになることを目的とした。

方法

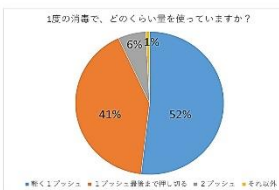
- ① 南高校1年フロンティア科、2年全クラスの生徒378名を対象に、手指衛生に関するアンケート調査を実施し、実態を把握する。
- ② ①の結果を踏まえ、正しい知識の普及を目指したパンフレットを作成し、配布する。
- ③ 啓発の効果を検証するため、再度アンケート調査を実施する。

① 手指衛生に関するアンケート調査結果〈啓発前〉

(回答率99.6%)

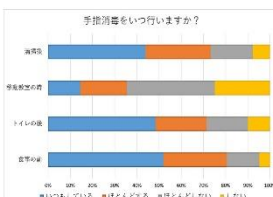


新型コロナウイルス感染症拡大の前後で手洗い・手指消毒への意識の変化があったと回答した人が多くいた。しかし、正しい知識を持っていないため誤った方法で手指消毒をしている人が多くいることが分かった。

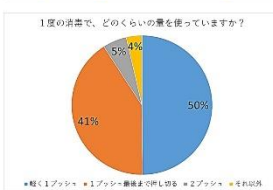


③ 手指消毒などに関するアンケート調査結果〈啓発後〉

(回答率94.4%)



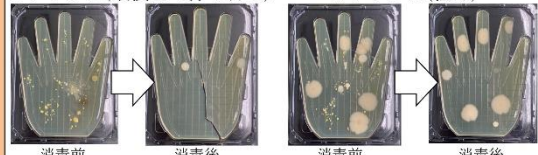
手指消毒をいつ行いますか？の質問に対して「いつもしている」「ほとんどする」と回答した人がどの項目においても減少していた。



1度の消毒で、どのくらいの量を使っていますか？の質問に対しては、「軽く1プッシュしている」と回答した人の数が減少していた。

②-1 消毒の適量の実証実験結果

1プッシュ(最後まで押し切る) 1プッシュ(軽く)



消毒の適量は、手に付けた消毒液が乾くのに15秒程度の時間を要するくらいであり、液体消毒では最後まで押し切るくらいの1プッシュが目安といわれている。そこで実証実験をした結果、軽く1プッシュより最後まで押し切るくらいの1プッシュの方が、菌の大幅な減少が見られた。

考察

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、手指衛生に対する意識は高まっていた。しかし、さらなる行動の変容を期待して行ったパンフレットによる啓発後の行動には、大きな変化は見られず、手指消毒実施のタイミングに関しては遵守率が低下していた。要因として、感染症の流行状況が収束したことによる意識の低下が反映されているのではないかと考えられ、今回のパンフレットによる啓発のみでは、正しい知識の定着や意識の変化を図ることが困難であったと考える。今後は、確実な行動の変容に繋がるよう、啓発の方法について具体的に検討していく必要がある。

今後の展望

- ・感染拡大に関わらず、日常的に正しい手指消毒を行うことの重要性について周知していきたい。
- ・どのようなパンフレットであれば、対象者の認識に留まり、行動を変容してみようと思えるか、媒体物の工夫も行っていく必要がある。
- ・パンフレットの以外での情報発信の方法についても、模索していきたい。

参考文献

加藤 (2015) : 手指衛生遵守率向上のための組織的な取り組みとその評価, 環境感染誌, 30(4),274-280.

謝辞

本研究にあたりまして、熱心なご指導をいただいた宮崎県立看護大学 勝野 絵梨奈先生・栗原 保子先生に感謝の意を表します。

②-2 パンフレットによる啓発

正しい消毒の方法・量、消毒すべきタイミングに加え手洗いで洗い残しの多い箇所などを記載している。

研究概要

宮崎は、他県と比べ白血病の死亡率が高いことを知り、白血病などの治療に役立つとされている臍帯血の正しい知識を広め、宮崎県の臍帯血提供量を増やすことで、死亡率を低下させることにつながるのではないかと、という仮説を立てた。その上で、臍帯血に関するパンフレットを作成。宮崎市役所こども未来部保健課から審査後、修正し妊婦の皆様へ配布、パンフレットに関するアンケート調査実施済み。(アンケート集計済み) 臍帯血への理解を深めるパンフレットは作成できたが、今回は配布する規模が小さく、このデータだけでは広まったと判断するのは難しい。

目的(臍帯血の正しい知識を広める)

臍帯血の提供量を増やすためには、まず、正しい知識を広めることが重要だという仮説をもとに、宮崎の人々を対象としたパンフレットを配布し、臍帯血への理解を深める。

方法(パンフレット配布)

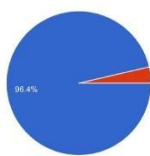
- ① 宮崎の臍帯血に関する情報調査
- ② 調べた情報をまとめパンフレット作成
- ③ 県病院にパンフレット配布の依頼
コロナ感染拡大防止のため失敗に終わった
- ④ 妊婦が集まる市役所に協力を依頼
- ⑤ 市役所によるパンフレット添削
- ⑥ 200部のパンフレットを市役所を訪れた妊婦さんに配布
- ⑦ パンフレットにつけたQRコードでアンケート集計



結果1(臍帯血への理解)

1. このパンフレットを見て臍帯血について理解できましたか。

55件の回答

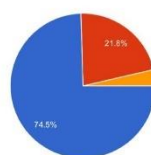


グラフから、このパンフレットで妊婦さんへの臍帯血に関する正しい知識を広めることができたと分かった。(今回は市役所を訪れた妊婦にしか配布できていないので回答数が少ないことが課題である)

結果2(臍帯血提供の関心)

2. 機会があれば臍帯血を提供したいと思いませんか。

55件の回答



また、提供への関心を高めることもできた。しかし「実際のシステムや具体的な協力機関(病院)がよくわからない」「どうすれば提供できるのか詳しく知りたい」という意見があり、この点に関しては改善が必要である。いいえと答えた人の意見としては、「主治医に勧められないと行動に移せないと思う」という回答があった。

考察(結果1, 2から)

このパンフレットで臍帯血に関する正しい知識が広まることができると分かったので、今回の妊婦、女性に絞っていた対象をもっと幅広く変更し誰でも気軽に手に取ることができる病院、各地区の公民館などに設置することによって、宮崎の人々に臍帯血の知識を広めるという目標を達成できるのではないかと考えた。また健康診断、献血の際に設置してもらうことで、すでに医療、健康への意識がある人にも、臍帯血を知ってもらえると考えた。

ただし配布したパンフレット数と回答数に大きく差があり、配るだけでは読んでもらえていないのではないのかという問題も出たため、直接説明する機会なども、増やすべきだと思った。

結論

結果として、宮崎全体に臍帯血に対する正しい知識を広めることができなかったが、どのようにすれば広まるのか、また広めるために改善点が見つかることができた。これからは改善点として出た詳しい提供方法などをよく調べ、改善したパンフレットをもっと幅広い場所に設置し、目標達成を目指す。具体的には県病院、県庁、空港など、誰でも手の届くような場所を考えている。

参考文献

https://www.bs.jrc.or.jp/bmdc/ebook/20200300_zzinochinobato.pdf

<https://www.komei.or.jp/policy/savecordblood/what/>

<https://www.komei.or.jp/policy/savecordblood/merit/>

スポーツ医療

～DVDを活用して高齢者が楽しく健康的な生活を目指すために～

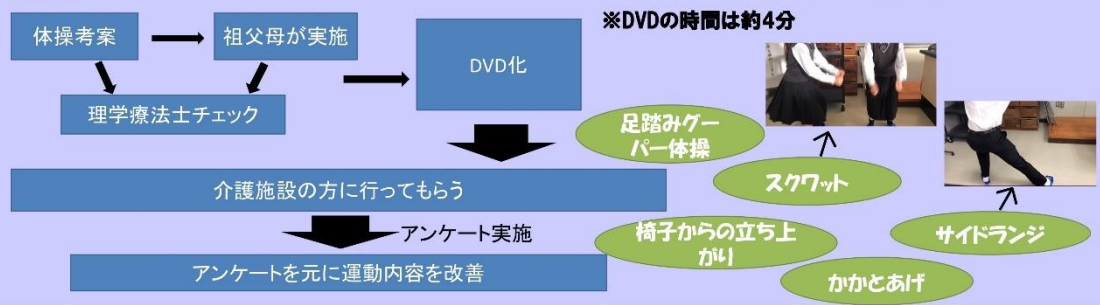
名前:小松愛莉 甲斐しずく 佐藤百華 小藤章 岡村皓平 12班



1. 研究目的

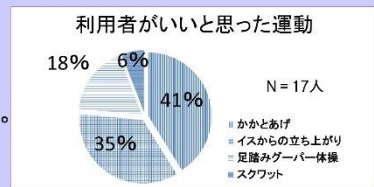
今の時代、新型コロナウイルス感染症流行により人々が外出を控えて運動できない状態にある。高齢者ではそのことが病気になるしやすい可能性がある。そこで、家で視聴できるDVDを活用して高齢者の運動の促進を目指したいと考えた。

2. 方法



3. 結果

- 椅子からの立ち上がり**
ポイント:お尻に力をいれる
→今までうまく立ち上がれなかった人もスムーズに立ち上がれるようになった。
- スクワット、サイドランジ**
困難→見直しが必要
スクワット…**タオルつまみ運動**に変更
理由:足裏の筋力が強くなり、立ったり歩いたりする最中バランスを崩したときに、踏ん張ったり、姿勢を立て直す能力を高める効果がある。
サイドランジ…**ふくらはぎマッサージ**に変更
理由:ふとももは第二の心臓と呼ばれているほど、大切な部位で全身に血流を運ぶ役割がある。
- 体操をしていただいた方の様子**
体操をすることを楽しんでいただ方が多く、笑顔が絶えなかった。
また、別れ際には涙ぐまれる方がいらした。
→高齢者には運動のしやすさが大切だと考えた。



「継続したい」が100%
→運動の促進!

運動後アンケート(N=17人)

	きついか	簡単か	継続したい
はい	10%	80%	100%
いいえ	90%	20%	0%

4. 考察

この研究を通して高齢者に運動を継続してもらうために、高齢者にとって困難だったサイドランジをふくらはぎマッサージにスクワットをタオルつまみ運動に変更したいと思うが、それだけでは継続してもらうのは困難だと考えた。実際、自分たちの家族に運動を行ってもらって高い意欲を示してもらったが、継続はなされなかった。このような状況から、私たちは、運動を行う高齢者に継続してもらうために、呼びかけや、一緒に運動を行うなどのこちら側からのアプローチも必要になってくると考えた。

5. 結論

- ① 高齢者への体操には極力負担をかけないものが良いと分かった。
- ② 理学療法士に体操の内容を確認してもらうことでより実施しやすくなる体操にできることが分かった。
- ③ 運動を継続してもらうために呼びかけや、一緒に運動を行うなどのこちら側からのアプローチが必要であることが分かった。

利用者の体操の様子(写真)



回数を数えながら行った。(かかとあげ)
→認知症予防



「久しぶりに楽しかった。」と、おっしゃっていただきました。

子ども・子育て応援プロジェクト

氏名 岩下、長渡、佐藤、溝辺、中野 所属 (行政38班)

0 研究概要 宮崎市の合計特殊出生率は、全国と比較して高い水準にあるものの、人口減少の勢いが加速しており、人口減少や少子化に歯止めをかけるためには、子育て世代の負担軽減を図ることが重要だと考え、支援策の中で高校生自らが取り組める案件を検討し、実践に向けた可能性調査を行った。

1 目的

子育てのしやすい環境をつくり、子育て世帯の負担軽減を図ることが重要であると考え、SDGsの4番と17番の内容を踏まえ、地域の子どもの学力向上を助長し、持続可能な社会、いわゆる、子育て世帯の住みやすい地域づくりを高校生も率先して行うべきだと考えた。



4. 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



17. パートナリーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて多様な手段を強化し、グローバルレベルでのパートナーシップを活性化

2-1 宮崎市の子育て支援(基礎知識)



『第2期宮崎市子ども・子育て支援プラン』

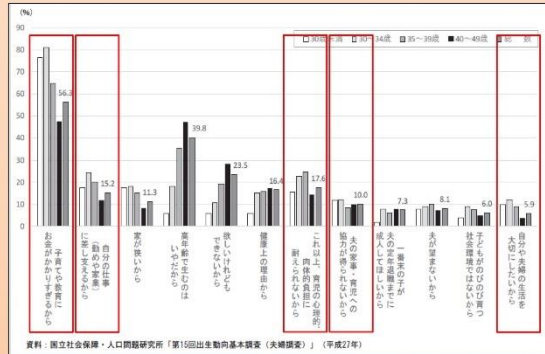
宮崎市では「安心して子どもを産み育て、子どもが健やかに成長できるまちづくり」に取り組むことを目標として掲げ、『地域における子育て支援の推進』を重要な施策(目標)として設定している。

2-2 調査結果

妻の年齢別にみた子どもをもたない理由

- 分析データ
- ①各年齢層で「**子育てや教育にお金がかかりすぎるから**」が最も多くなっている。
 - ②特に3.5歳未満の若い世代では、8割前後が理由として選択している。
 - ③30代では、「**自分の仕事に差し支える**」、「**これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられない**」という回答が他の年齢層に比べて多くなっている。

★子育て環境に対する支援の必要性が高い!



3 分析(課題から検討した支援策)

- ①子育てや教育にお金がかかりすぎる
- ②仕事に差し支える
- ③自分や夫婦の生活を大切にしたい
- ④育児の心理的・肉体的な負担に耐えられない
- ⑤夫の家事・育児への協力が得られない

時間やお金に余裕がない

こどものお世話をフォロー

学習支援のボランティア
(放課後児童クラブ)

4 考察(これからの活動)

分析の結果、『放課後児童クラブ』の発足について検討を行った。本校では過去に小学生を対象にボランティアで勉強を教える「学習教室」の取組を行っている。

また、『赤江東地区』では、赤江東地区青少年育成協議会が中心となって、寺子屋的な学習支援事業を実施している。これらの現状を踏まえ、私たち高校生もこの運営に携わり、子育て支援の負担軽減につなげたいと考えている。

○今後の活動内容

- ・赤江東地区青少年育成協議会代表との打ち合わせ
- ・南高校生への参加者募集と割り振り
- ・活動後アンケートの作成と実施・考察
- ・アンケートによる「運営方法」や「活動内容」の検討

5 結論

今後、学習支援のボランティアの実施に向けた取組み等を加速化させる予定となっている。

一方、宮崎大学では、宮崎市の学術振興基金を活用して「人口減少問題に対する現状把握と課題解決に向けた提案」に向けた研究を行い、「人口減少時代にある日本において、宮崎市の人口減少率を緩やかにし、市の景観を保ち、住民に快適な生活を保証するための都市システムを提案する」ことを目標に掲げ、『少子化問題』への調査研究を行っている。

この研究チームが実施するワークショップ(12月26日)に私たちも参加し、研究結果を学習し、私たちが検討しているプランについて助言をいただこうとしている。

6 参考文献

- ・国立社会保障・人口問題研究所の「出生動向基本調査(夫婦調査)」(平成27年度)
- ・第2期 宮崎市子ども・子育て支援プラン

若者Support Project

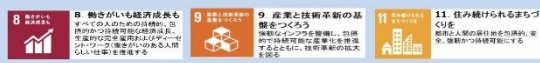
行政40班 氏名 月岡 末崎 夏田 佐野 宗像

0 研究概要

宮崎市をはじめ、地方都市では若年層（15歳から24歳）の地元離れが大きな課題。宮崎市においては、『若年層の転出抑制』が最重要案件。就職希望の企業が少なくことや賃金の低さなどの課題により、首都圏や大都市圏で就職する若年層が多い現状を踏まえた地元定着支援策を早急に検討する必要がある。また、宮崎市にはICT関連産業が中心市街地を中心に数多く集積している現状を高校生や大学生にあまり知られていない。

1 目的

ICT関連産業の現状と課題を調査研究すると、雇用（人材不足）に関する事業者側の視点を深掘りし、SDGsの8番目・9番目・11番目の内容を踏まえ、若年層の地元定着につなげられると考えた。



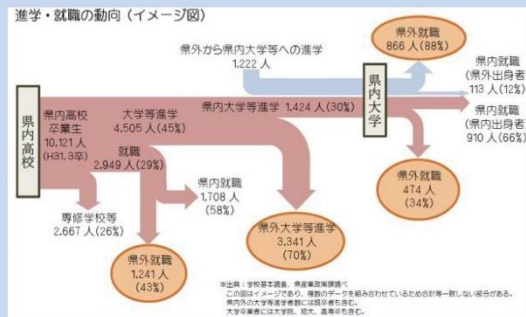
2 方法

ICT産業と地域の発展に寄与することを目的として活動を行っている業界団体のMiyazaki It Plus（宮崎市ICT企業連絡協議会）の関係者へのヒアリングを実施し、課題を抽出する。

特に『**求職**』と『**求人**』のニーズが一致しない課題の**解決策を検討**する。自治体間競争が激化するICT関連産業において、宮崎市がさらに活性化する取り組みも検討する。

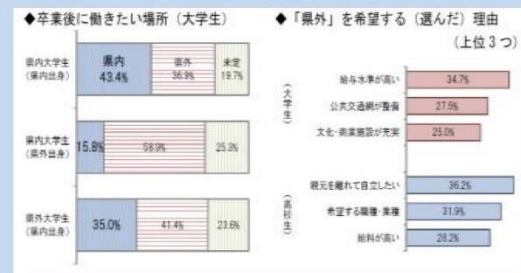
3 結果1

- 南高校生にアンケート実施の結果
- 『**県外に就職したい**』と回答した人が多かった。
- 高校・大学生の進学・就職先=1位 九州・沖縄（58.2%）
- 県外就職先=1位 関東地域（31.7%）



4 結果2

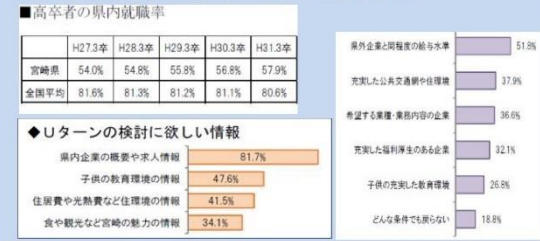
- 大学卒業後働きたい場所
- 県内出身者は「**県内**」、**県外出身者は「県外」が最も多い**が、県外に進学した学生でも3割強が「**県内**」と回答。
- 「**県外**」を選ぶ（選んだ）理由
- 大学生は給与水準や公共交通網・商業施設等の充実高校生は親元からの自立や希望の業種等が上位。



5 考察

宮崎大学では、宮崎市の学術振興基金を活用して『人口減少問題に対する現状把握と課題解決に向けた提案』に向けた研究を行い、「少子化対策」や「**若年層の転出抑制**」について調査研究を行っている。

課題解決に向けた提案に向け、抽出された要因の分析を行う。またワークショップを開催する予定となっており、この**ワークショップ（12月26日）に私たちも参加**し、研究結果を学習し、私たちが検討しているプランについて助言（下のグラフを触れながら）をいただく予定である。



6 結論

様々な調査結果から、若年層の地元定着につながる取組を検討した。

左図にあるように、**Uターンの検討に欲しい情報**こそが、「定着させるため」に必要な内容であると考えられる。

そのためには、宮崎市の『20do』アプリや宮崎県の『ふるさと宮崎人材バンク』などの求人情報が様々な世代で活用できる内容にすべきではないかと考える。

また、本校の普通科生徒の多くが、将来設計を行えていない状況を踏まえて、進路や就職を市（県）内で行うため、『**Aシステム**』の導入について、検討を行ったが、その前段として、本校の伝統である『**鵬ドリカム講座**』の過去の実績全てを取りまとめPRすることで、本校生徒が将来、地元で活躍するイメージを掴ませることができるとは考えられる。

最後に、既存の就職関連サイトや観光関連サイトとの融合によって、生徒の親も含め、幅広い世代に情報発信できるアプリ等の開発も有効ではないかと考える。

7 参考文献

人口減少・地域活性化対策特別委員会資料（令和元年9月26日宮崎県総合政策部作成）

授業に全集中！ ～授業中の睡魔解消を目指して～

宮崎県立宮崎南高等学校 フロントティア科2年 林田理佐 矢田成美 田中俊太郎 吉田諒哉 指導者 豊田広子

研究概要・目的

私たちは、来年受験生という自覚を持つために何をすべきか考えたところ、ふだんの勉強に加え授業での集中力の向上が必要であると考えた。集中力が欠けている原因として授業中の睡魔が考えられたので睡眠についてのアンケートを実施し、その結果から昼食後の居眠りが多いことが明らかになった。そこで睡魔を解消するとともに授業への集中力を向上するために昼休みにおける仮眠の効果を検証することとした。

仮説

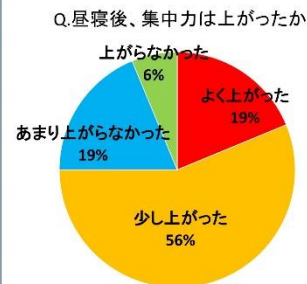
昼休みに**仮眠**をとる時間を設けることで午後の授業中の**集中力UP**につながる。

方法

- ①アンケートの実施（対象：2年生全員）
- ②集計結果を分析
- ③実証実験モニター希望者の選出
- ④実証実験の実施
 - ・モニター人数 17名（対象：フロントティア科2年）
 - ・実施期間 2日間
 - ・実施時間 15分
- ⑤「昼寝実施に関するアンケート」を実施
- ⑥集計結果を分析



結果2



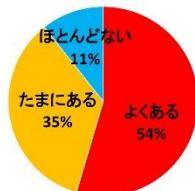
昼寝実施後のモニターの感想

- ・周りが騒がしかった
- ・眠気がなくなった
- ・逆に眠くなった
- ・疲れがすっきりした
- ・小テストの勉強をしたい

昼寝の実証実験のアンケート結果より、集中力が“よく上がった”“少し上がった”と回答した人が17名中13名であった。一方、昼寝実施後に“眠くなった”と答えた人が7名、“変化なし”“眠くならなかった”と答えた人が10名であった。

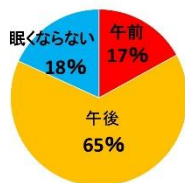
結果1

Q1. 授業中眠くなることがあるか



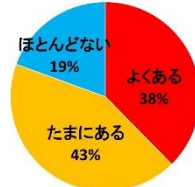
本校2年生を対象に「高校生の睡眠と授業中の居眠りに関する調査」を実施し、“授業中に眠くなることもある。”“たまにある”と答えた人が全体の約9割を占めている。

Q2. いつ眠くなることが多いか



授業中眠くなる時間帯が決まっている人(165名)の中では“午後”の授業で眠くなる人が約7割いた。

Q3. 授業中寝てしまうことがあるか



“寝てしまうことがよくある”、“たまにある”と答えた人が全体の約8割いた。

考察

現在、高校生の睡眠時間は8時間が望ましいと言われているが、「高校生に関する意識調査報告書」によると日本の高校生は海外に比べ2～5倍居眠りをしており、日本の平均睡眠時間は海外より約30分短く、約6時間30分となっている。本校のアンケート結果でも約6時間と答えた生徒が多かった。今回の実証実験では静かな環境を整えることができず、“うまく仮眠をとることができなかった”、“テスト勉強で忙しく、自身の睡眠時間を削られた”、“テストが不安で十分な睡眠の質をとれなかった”などの意見もあり、仮眠実験の効果を実証することが難しかった。実施時期や仮眠の時間の検討、対象を学年全体にするなどして再検討していく必要がある。

謝辞

今回の研究にあたりまして、ご指導していただいた宮崎大学教育学部 盛満 弥生 先生に感謝の意を表します。

参考文献

- ・https://www.japa.org/tips/kkj_1002/
昼寝～ストレス解消法～ 特定非営利法人日本成人病予防協会
- ・国立青少年復興機関(2017)
「高校生に関する意識調査報告書・日本・米国・中国・韓国の比較」
- ・ITmediaオンライン(2021)
「日本人の平均睡眠時間は『世界最短』」
- ・佐々木司(2016)「思春期の子どもは夜何時間眠ったらよいのか?～精神保健の観点から～」
<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400043770.pdf>